

能登半島地震緊急提言

2024年2月 JSURP 認定NPO法人 日本都市計画家協会

— 過疎地の「地域社会の躍動」を促す復興を目指す —

1. 能登半島の将来ビジョンを描き、それを実現する復興事業

(1) “地域での暮らし”を優先し、ハード整備はそれに追従

- 能登半島の「生活文化（里山里海）」と「生業」の再生
- 震災前に取り組んでいた「移住促進策」と「新たな産業創出」の強化
- 地域のアイデンティティを表現する「景観」や「街並み」の再生
- その活動を支えるインフラの早期復旧（半島部ならではの大きな課題）

輪島塗、棚田、漁業、地酒、木工、祭礼、観光、体験学習、
自然景観、木造瓦屋根の街並み など

(2) 新たな地域社会・コミュニティへの再編の検討（その是非を含めて）

- 小規模集落や漁港の集約と通勤型農林漁業への転換
- 新たな産業の拠点配置（既存集落の観光施設利用など）

— 地域主体の復興に向けた、被災地での“暮らし”の早期確保 —

2. “能登半島地震型”の「住まいの復興」手法の開発

- 空家リノベーションや再利用可能な被災住宅の修理による仮住まいの確保
- 被災住宅の活用のために公費解体期限の大幅延長（10年間など）
- 様々な住まい方の提案（シェアハウス、コレクティブハウスなど）
- キャンピングカーやトレーラーハウスなどの積極活用
- 入居後も住宅再建を再選択できる仕組みの創設（期間限定）
- 最終的な住宅再建に向けて、様々な災害を避けられる地域・土地の明確化

3. 官民連携による支援体制

- 県独自の民間資金調達、予算措置の柔軟性を発揮できる財政基盤の確立
- 地元企業・組織の参画による各種取組の展開（復興経験の地場産業化）
- 復興活動のプレーヤーとして活動する“専門家チーム”の派遣
（空き家のリノベーションチームなど、その後の移住者として期待）
- 復興の局面に応じて変化するニーズに対応する支援者のコーディネート
- 外部支援者の滞在と交流・情報交換などを支える拠点の整備（ex:能登空港）

キーワード and or 分類から選ぶ 地域から選ぶ 価格帯から選ぶ 検索

物件

輪島市の空き家/空地データベース (発災前情報)

物件数 : **38**

売買対象 : **33**

 空家 : **27**

 500万円以下 : **25**

 500万円超 : **2**

 空地 : **6**

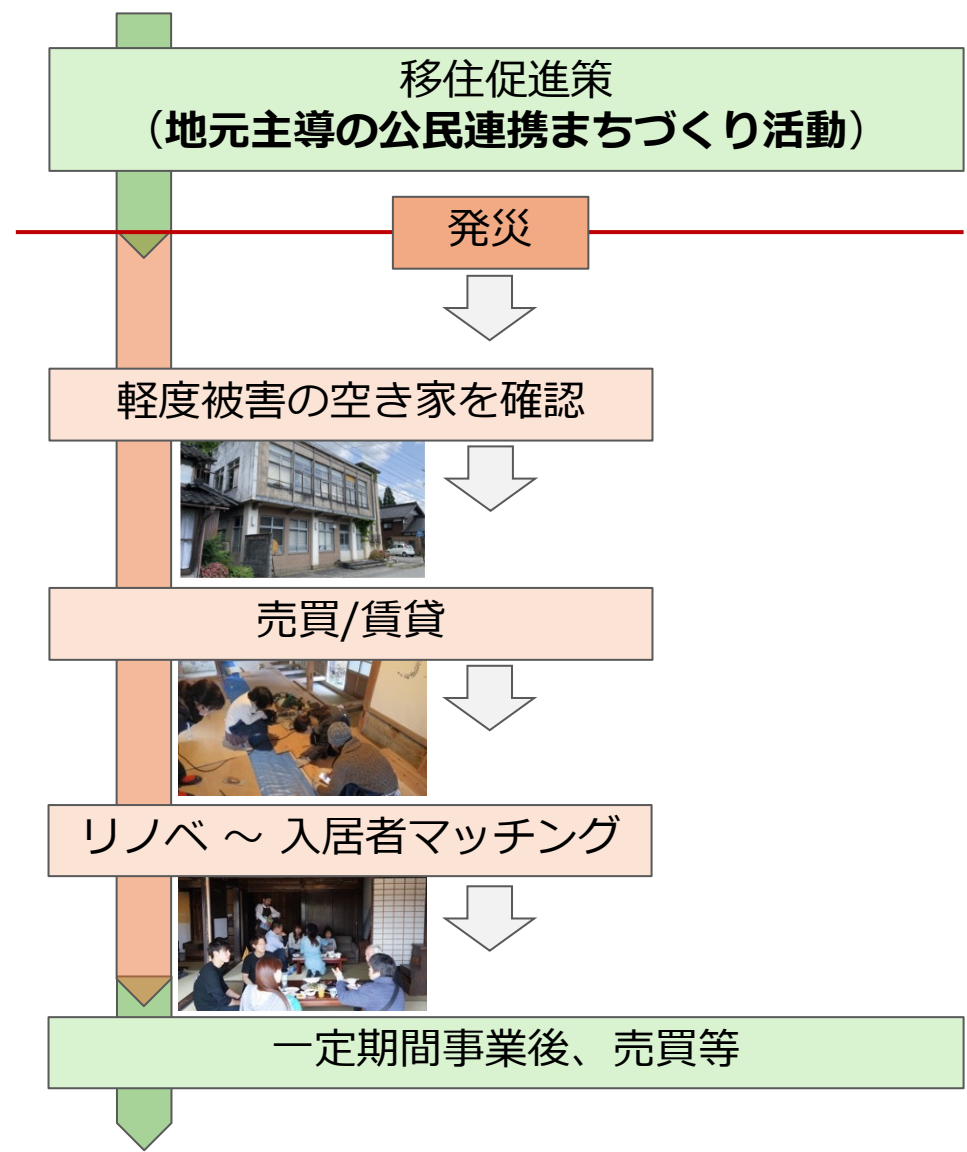
賃貸対象 : **5**

 空家 : **3**

 空地 : **2**



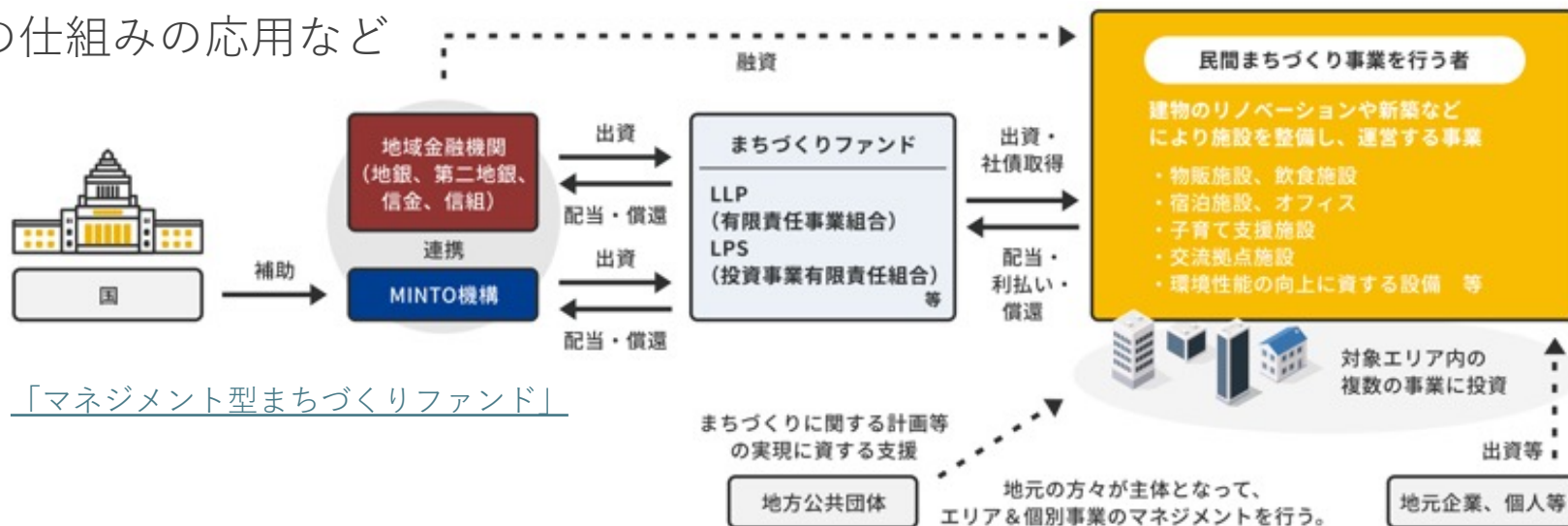
“能登半島地震型”の「住まいの復興」手法 <望ましいと考える流れ>



本事業モデルのイメージ（検討中）

▶経済基盤：「官民連携ファンド」を組成

- ・民都機構の仕組みの応用など



▶事業主体：リノベ事業官民連携デベ、地元まちづくり組織

- ・ファンド出資、企業版ふるさと納税活用型地元行政の出資
- ・（新設の場合）収益を地域まちづくりに還元する時限型事業体

▶実践部隊：「現地滞在型リノベチーム」を編成

- ・調査、設計、工務、コーディネイターなど
- ・リノベ事業官民連携デベの発注により、整備/管理運営を行う実践部隊（複数？）

本事業モデル検討の主旨/論点 纏め

“能登半島地震型”の「住まいの復興」手法 ＜事前復興事業計画版＞

- ✓ 地元主導のまちづくり事業とシームレスな復興事業を…
 - ・ 集落型の魅力 = 滞在型観光、移住促進などに注力
 - ⇒ 震災で孤立、長期化
 - ⇒ 復興の仕方によっては全てを失う

- ✓ 空き家リノベ型でいち早く整備を…
 - ・ 高齢者/要介護住民向け；介護型住まい
 - ・ 支援活動者向け；滞在型の活動拠点

- ✓ 町並みの保全は大切な観点である…
 - ・ この風景がなくなると〇〇が〇〇でなくなる…

- ✓ 整備予算；仮設住宅と同規模…？

- ✓ 本事業モデルは全国の類似地域で、**事前復興事業計画**として実施可能ではないか…

